

縁があつて六本木ヒルズの店舗に巡り合いますが、思い切った決断ができずに悩んでいたときに、母の言葉が吹つ切るきっかけに

「幸せの価値は人それぞれ。自分が幸せだと思うことと、ことんやりなさい」

私の流行語
大賞
2013

永松麗子さん(48歳・ジュエルグラマー オーナー・デザイナー)

オーナーでもありデザイナーでもある永松さんの華やかなジュエリーが並ぶ「ジュエルグラマー」の店舗は、あの六本木ヒルズにあります。

永松さんは福岡出身。大学を卒業後も福岡で就職。ジュエリリーとは無縁の仕事に就きます。「20代後半に一生自己表現のできる仕事がしたい」と思いました。デザイナーを目指し、三面図が描けるようにO-Lをしながら専門学校に通いました。そして33歳で起業。ボーナスや退職金の100万で最初に5つジュエリーを作つて販売をしました。するとすぐ天荒な娘だと思つたでしょう」と振り返ります。そんな何事も即決し行動してきた永松さんは言います。「いつもはデザイナーとして世界観が表現できる空間が欲しかった。でも契約するには人生で一番の賭けに出る大きな決断が必要でした。母がかけてくれた言葉は、仕事に生きている自分を認めてくれたんだという言葉に聞こえ、このチャンスに賭けようという決心に繋がつたんです」

お客様を増やしていました。

「38歳の時突然上京を思いつき、週末には住むところを決め、翌週には引っ越しました。母は結婚や子供を実は望んでいたでしよう、破天荒な娘だと思つたでしょう」と振り返ります。

約3年前に京都へ旅行。「毎年母の誕生日には、母の好きなようなデザインを考え、ジュエリーをプレゼントしています」。

福岡をはじめ国内外に出張することも多い日々。そんな旅のお供にいつも一緒にグローブトロッターのトランクは想い出がいっぱいだそう。

橋本ワ「さん(42歳・スポーツビューティ アドバイザー)
「何かをするということは、自分の命を削り取つて、いるようなもの」

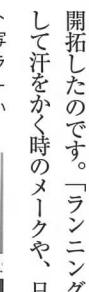
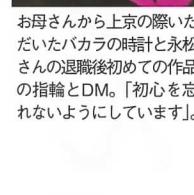
私の流行語
大賞
2013

今年のJALホノルルマラソンツアーのパンフレットに橋本さんの名前があります。「橋本さんにようビューティ・クリニック」。一般社団法人日本スポーツビューティ協会を立ち上げたのは今年5月。「小さい頃から日焼けしないよう紫外線を避け、そして大学は体育を専攻。眉毛のコンプレックスからマーク学校で学び、それらが全部仕事に繋がりました」。スポーツと美容を融合させた分野を開拓したのです。「ランニングをして汗をかく時のマークや、日差

しに負けないスキンケアなどを提案しています」。しかし今年協会を設立時には、設立さえすれば何とか仕事が回つてくるだろうと人任せ。そんな時にフランスで友人に言われた言葉を聞きハッと目が覚めたそう。「時間と命はイコールなんだと気付き、無駄な時間を見直しました。人や家族にも会う時間を作れば、数倍もエネルギーがチャージされ有効な時間に。準備や営業に力が入り、仕事が増え

さらにがんばつていきたいです」

自分で協会を立ち上げたものの、何をしていくべきか悩んでいた時、フランス人の芸術家の友人が伝えてくれた限りある時間の大切さ、「自分の困ったことが今は仕事に。山登り、自転車、ゴルフ、トライアスロンなどをする女性にくずれにくいマークを提案したいです」



この言葉をくれた人に贈りたい言葉

自由に育ってくれてありがとう。細かいことを言わず、信用してくれて感謝しています。80歳を過ぎても元気で両親が自立してくれているのも仕事に没頭でき、ありがとうございます。いつまでも美しく健康でいてください。

この言葉をくれた人に贈りたい言葉

まずはお礼をお伝えしたいです。きっと彼女は、「そんなこと話したっけ?」という感じでしうが、私の心に響きました。私もこれから人に伝えるときは、自分の言葉として落とし込んで伝えられる人間になりたいです。



ジュエリーを日常に溶け込ませ、装いの完成度をアップさせる「ファッショントリック」をデイジングの基本としています。

この言葉をくれた人に贈りたい言葉

お母さんから上京の際いたいたバカラの時計と永松さんの退職後初めての作品の指輪とDM。「初心を忘れないようにしています」。



この言葉をくれた人に贈りたい言葉

まずはお礼をお伝えしたいです。きっと彼女は、「そんなこと話したっけ?」という感じでしうが、私の心に響きました。私もこれから人に伝えるときは、自分の言葉として落とし込んで伝えられる人間になりたいです。